

令和7年度国立高等専門学校機構学生表彰（特別表彰） 受賞者一覧

（1）東京高専 機械工学科 3年 久保 満寛さん

「AAFC 2026年ワールドカップ・アジア予選大会に日本代表として出場、3位入賞（アンプティサッカー）」

<事績>

当該学生は、足や腕に切断障がいのある選手が行う「アンプティサッカー」の国際大会「AAFC 2026年ワールドカップ・アジア予選大会」に日本代表メンバーとして出場した。大会では、各国の強豪を相手にスピードを生かした力強いプレーで果敢に競り合い、日本代表としての責務を見事に果たした。

本大会にはアジア9か国が参加し、日本代表チームは準決勝決定戦でイランに0対1で惜敗したものの、続く3位決定戦ではイラクに1対0で勝利し、最終成績3位という優れた成果を取めた。さらに、日本代表チームは大会のフェアプレー賞を受賞し、競技姿勢においても国際的に高い評価を受けた。また、本大会での活躍により、日本代表チームは、本年夏にコスタリカで開催される「WAFF ワールドカップ 2026」への出場権を獲得した。

<関連ウェブページ>

https://www.tokyo-ct.ac.jp/news/20251222_1/

（2）長岡高専 専攻科 物質工学専攻 2年 長谷川 和輝さん

「国際的な学術雑誌 JJAP 誌 (IF:1.8) に第一著者として査読付き論文が掲載されるとともに、第15回高専-TUT 太陽電池合同シンポジウムにおいて優秀発表賞を受賞の件」

<事績>

当該学生は、次世代の環境配慮型太陽電池の材料として期待される銅・スズ・硫黄から成る化合物「 Cu_2SnS_3 (CTS)」の性能向上に取り組み、材料に微量のルビジウム (Rb) を加えることで薄膜内部の結晶が整い、電気が流れやすい質の高い膜が形成されることを新たに見いだした。これは、安価で環境負荷の小さい太陽電池の実現に向けた重要な成果である。当該学生が第一著者として本研究成果をまとめた論文は国際的な査読付き学術誌に Kazuki Hasegawa and Hideaki Araki, "Effect of Rb addition on Cu_2SnS_3 thin-film solar cells", Japanese Journal of Applied Physics 64, 05SP16 (2025)として掲載された。あわせて関連研究の国際誌掲載や国際会議発表、国内シンポジウムでの受賞も重ね、学生として際立った研究成果を挙げている。

<関連ウェブページ>

[Effect of Rb addition on \$\text{Cu}_2\text{SnS}_3\$ thin-film solar cells - IOPscience](https://iopscience.iop.org/article/10.1088/1742-6596/64/5/05SP16)

(3) 奈良高専 物質化学工学科 3年 渡邊 周平さん

「国際化学オリンピック金メダル獲得」

<事績>

「国際化学オリンピック」は、世界各国の高校生が高度な化学問題で競い合う国際大会である。当該学生は、2024年に実施された「化学グランプリ」において参加者2,694名の中で優れた成績を収め、その後の2度の選考を経て、第57回国際化学オリンピックの日本代表4名のうちの1名に選出され、本大会に出場した。

世界90の国・地域から高校生世代の354名が本大会に参加する中、当該学生は成績上位約1割のみに授与される金メダルを獲得する快挙を成し遂げた。

日本は2003年から毎年、国際化学オリンピックへ代表を派遣しており、これまでも高専生の出場例は複数あるが、高専生の金メダル受賞は当該学生が初となる。

なお、この成果を受け、文部科学省より文部科学大臣表彰が授与されている。

<関連ウェブページ>

[本校学生が、第57回国際化学オリンピックにて金メダルを獲得し、文部科学大臣表彰を受賞しました！
| 奈良工業高等専門学校](#)

(4) 米子高専 放送部

「第72回NHK杯全国高校放送コンテスト優勝・全米高校映画祭2025出場 他」

<事績>

当該学生らは、校内外の話題を題材としたラジオ番組、テレビ番組、映画作品の制作に日頃から取り組み、国内外のコンテストで継続的に優れた成果を挙げている。

国内最大規模の高校放送大会である「第72回NHK杯全国高校放送コンテスト」では、創作ラジオドラマ部門に出品した作品「弾丸の行方は」が優勝し、高専として同部門初となる全国制覇を果たした。また、映画作品「クラッシュ」は、ニューヨークで開催される世界最大規模の高校生自主映画祭「全米高校映画祭AAHSFF2025」に日本代表として選出され、国外においてもその実力が高く評価されている。さらに、社会人やセミプロが参加する国際映画祭でも複数の入選を果たすなど、幅広い分野で高い評価を獲得している。

<関連ウェブページ>

[【放送部】R7年度NHK杯全国高校放送コンテスト 創作ラジオドラマ部門で優勝！ | 国立米子工業高等専門学校](#)

(5) 沖縄高専 中平防災研究室

「つくば science edge 2025 文部科学大臣賞受賞の件」

<事績>

当該学生らは、災害時の通信断絶が救援の遅れにつながるという課題に着目し、被災者自らが通信網をつくり出せる革新的な防災ヘルメット「コメット (human life connection helmet)」を発案した。これは、小型通信装置を内蔵したヘルメットを被災者同士が身に着けることで、バケツリレーのように端末が互いに情報を中継し合う“アドホック通信”を構築し、被災状況の共有や救援要請を可能にする仕組みである。本アイデアは、全国の中高生が科学的発想を競う「つくば Science Edge 2025」において高く評価され、最優秀賞にあたる文部科学大臣賞を受賞した。社会的意義の大きい実践的な防災技術として、専門家からも強い期待が寄せられている。

<関連ウェブページ>

[つくば Science Edge2025 に出場しました | 学生の活動 | 国立 沖縄工業高等専門学校](#)